

# **GIGAスクール構想のもとでの 高等学校芸術科（書道）の指導について**

# GIGAスクール構想のもとでの芸術科（書道）の指導において ICTを活用する際のポイント

## 1. 高等学校芸術科（書道）におけるICTの効果的な活用

高等学校芸術科（書道）においては、用具・用材の特質・特性を体感したり、実物と直接向き合ったりする学習活動と、ICTを活用する学習活動とを、学習内容やその段階に応じて適切に関連付けながら、効果的に指導できるよう工夫することが重要である。

## 2. 新学習指導要領に示した「A表現」及び「B鑑賞」の指導におけるICTの活用

「A表現」では、「B鑑賞」との関連を図る上で、コンピュータやプロジェクタ、大型モニター等の機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。範書の提示に広く活用される実物投影機（OHC）の他、映像撮影機器やタブレット型のコンピュータを活用し、生徒の制作過程を撮影し、クラス内での共有や対話を通して相互に考えを深める活動や、生徒の作品を撮影・記録・蓄積し、学習成果やその変容の比較・検証に主体的に取り組めるポートフォリオは、書道におけるICT活用の好例と言える。映像撮影機器を活用し、運筆での自身の筆などの運動を分析的に捉えたり振り返ったりすることは、書の重要な特性である運動性や時間性について主体的に深く考える上で有効である。

「B鑑賞」では、情報通信ネットワークを活用した調べ学習の他、「A表現」との関連を図る上で、映像機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。「A表現」での生徒の制作過程及び作品の画像や映像を取り上げて生徒の作品の固有の価値について考えさせたり、実物と直接向き合えない古典や名筆、鑑賞の方法や場を考える上での教材となる展示物や建築様式等について、美術館、博物館等のWeb ページ掲載の画像を活用したりするなど、今次改訂で示した鑑賞活動の幅に対応した工夫が求められる。